令和４年度　学校評価報告書（実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月１日実施）	総合評価（３月15日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の基礎学力を充実・定着させ、学科併置の特色をいかし、磨き合う学習活動の工夫・改善に取り組む。 ②国際化、６次産業化を視野に入れた教育課程の充実を図る。	①生徒の基礎学力を充実・定着させ、学科併置の特色を生かし、磨き合う学習活動の工夫・改善に取り組む。 ②国際化、６次産業化を視野に入れた教育課程の充実を図る。	①「朝学習のガイドライン」をもとに、教材準備や指導方法を工夫する。 ①「アグリ・ビジネス」のカリキュラムを充実させる。 ②ICT 機器を活用し、国際化、６次産業化を視野に入れ、各科が連携した取り組みを行う。 研修への参加を促進するとともに、効果的となる職員研修を行う。	①生徒による授業評価で授業の在り方と学習の状況について効果的な分析ができたか。 ①学科併置の特色を生かした効果的な内容の取り組みができたか。 ②新たな施設・設備を活用し、連携を視野に入れた授業改善の取り組みできたか。 ②研修結果を職員に周知する取り組みができたか。	①朝学習の教材を工夫し、基礎学力の定着を図るため確認テストを実施。 ①アグリ・ビジネスのカリキュラムとして花菜ガーデン見学を実施した。 ②平塚市の農産物を利用し、カレーの開発を実施。（試作…農業、ラベル…商業） ②６次化製造室を利用した生産物の販売。 ②研修への参加は難しいが、授業見学など盛んに行われている	①朝学習監督教員の配置について、職員打合せ時間との兼ね合いで課題となっている。 ①アグリ・ビジネスのカリキュラム（通年）作成時において、課題・問題点を洗い出す。 ②６次産業化への取り組みが学校全体に広がっていない。徐々に広げる努力をしていく。 ②新採用者を中心に年次経験者への授業見学・反省会の時間の確保が課題である。	○朝学習への生徒の意識が定着してきたのは、基礎学力の向上を生徒自身が感じることができた結果からと考える。今後とも朝学習については続けてほしい。 ○ひとり一台ＰＣも２年目となるので、スマート専門高校で導入された ICT 機器を活用した授業展開をより一層推進してもらいたい。 ○生徒による授業評価では、多くの生徒が授業に満足している。オンライン授業では難しかった実験実習科目が対面で再開できたことも大きいと思う。今後も専門高校の特色である実験実習授業を大切にしてほしい。	①生徒の朝学習への取り組み意識は上がっているが、内容や教材についての検討は年度当初に学年が行っているため、学校としての体系的プログラムが作成できていない。 ②耐震工事完了に伴う教室移動に伴い、仮設プレハブ棟に設置してあった Wi-Fi アクセスポイントを第２棟各ＨＲ教室内に移設し、全ＨＲ教室内に Wi-Fi アクセスポイントの整備ができた。ICT を活用した授業実践推進のための基盤整備ができ、今後は実験実習などの特別教室と農場への整備をすすめたい。教職員の ICT 活用のスキル向上と年間を通した本格的な活用が課題である。	①朝学習の更なる内容充実に向け、学年主導から学習支援グループ主導で各教科、グループと協議し、高校３年間を見越した体系化したプログラムの作成について検討をすすめる。 ②ICT を活用した授業を意識した年間指導計画に取組むとともに、先進的な授業を公開して授業改善に役立てる。 各教職員が自ら工夫している ICT 活用術などを職員掲示板などに掲示し、誰もが見られるようにし、誰もが内容について気軽に聞け、教えあうことができる風土を構築する。
2	生徒指導・支援	①生徒が安全・安心に学校生活を送るための指導を充実させ、生徒自らが主体的に行動し、新たな社会的課題に対応できる人材の育成を図る。 ②責任感や連帯感の醸成と達成感が得られるよう生徒主体の活動を充実させる。	①生徒指導に向けた職員間の共通理解を深め、共通実施することで生徒に社会人として必要なルール・マナーを身に着けさせる。 ①教育相談の充実と整備に取り組む。 ②生徒が自主的・積極的に活動できる体制を構築する。	①生活指導内規等の運用方法を見直し、生徒の実情にあった指導を行い、生徒一人ひとりに対応した指導を実践する。社会で必要とされるルール・マナーを定着させるよう粘り強く指導をする。 ①生徒情報の共有会等がスピード感をもってでき組織的に対応できる体制作りを行う。 ②生徒会行事や部活動・委員会活動がスムーズに運営できるよう責任感と協調・協同を自覚させた行動ができる環境の充実を図る。	①生活指導内規について職員・生徒が認識し、生徒が主体的に守ることができたか。 ①情報共有後にケース会議の実施等の組織的な対応ができたか。 ②部活動の登録状況と実績、また委員会活動実績に効果はあったか。各種行事運営等で生徒が連携して積極的に活動することができたか。	①職員が内規を理解して指導にあたることで、生徒がルールやマナーをより意識するようになった。 ①学年の教育相談コーディネーターを軸に、速やかにケース会議等が実施され、ケースに合わせた SC や SSW との連携が図れている。 ②生徒会行事では、多くの先生方のご協力のもと、生徒が連携して主体的に活動する体制が整いつつある。また、いくつかの部活動・委員会活動では意欲的な活動が見受けられる。	①生徒指導を充実させるために「生活指導内規」について、職員間の共通認識を図るための方法をより一層工夫する。また、内規については、社会情勢等に照らし合わせ、見直し改善に努める。 ①「相談してよかった」と思われる教育相談の体制づくりに努める。 ②各種行事などでは、生徒への情報伝達や注意喚起をより徹底する方法を検討したい。また、職員に対しても共通理解を図れるよう引き続き検討したい。	○職員間における生活指導方法への共通理解の揺らぎについては、内規等の見直しを図り課題解決に向けてすすめてほしい。 ○ＳＣ、ＳＳＷ、教育相談コーディネーター、関係機関と連携し、生徒の困りに対し組織的な対応ができている。特別な事情を抱える生徒は増えていくと思われるので相談体制をさらに整備できると良い。 ○感染症対策を考えての制限ある行事運営の中ではあるが、生徒が自主的・積極的に活動できる場を作り生徒会活動の活性化を図ってほしい。 ○部活動への加入率が伸び悩んでいるが、農業科・商業科の独自の活動団体について実績を残している点は評価できる。	①生活指導内規の運用に対し、その都度「生徒のためになっているか」「保護者の理解は得られるか」「社会情勢にあっているか」を念頭に修正を加えることができ、次年度に向け新たな内規を提案することができた。 ①年度当初に全教職員に向け、特別な事情を抱える生徒の情報交換会を開催した。必要に応じてケース会議も行い、ＳＣ等や関係機関も活用し組織的に問題解決することができた。 ②生徒会活動の大きな行事である体育祭・文化祭等を実施することができ、責任感や協調性が育まれ、次年度の行事検討など主体的な姿勢を身につけさせることができた。	①生活指導について、教職員の共通理解と共通実施ができるよう内規の周知の方法を工夫する。生徒に対しても生活指導内規を十分理解して学校生活に取り組めるよう周知方法に一層の工夫をする。 ①人間関係等で生徒のおかれる状況は変化しやすいことを踏まえ、生徒の心理面でのケアができるよう定期的なアンケートを継続して実施する。また、教育相談コーディネーターを各学年への配置に努める。 ②学校行事における今年度の振返りを活かし次年度に向け改善策を検討する。 準備期間を含めた行事開催での生徒間の交流や一体感が高まるような取組みに向けて工夫改善を図る。

令和４年度　学校評価報告書（実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月１日実施）	総合評価（３月15日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
３	進路指導・支援	①社会の動向に柔軟に対応できる産業人として、産業構造の変化や社会のニーズ等に対応した人物育成を推進する。 ②キャリア教育の充実を図り、高い専門性を持つスペシャリストを育成する。	①産業の発展及び社会の発展に寄与する人物育成を推進する。 ②社会に貢献できる高い専門性を持つスペシャリストを育成する。 ③進路相談を充実させ、適切な進路選択ができるように支援する。	①ビジネスマナーの重要性を理解させ、企業体験や校内実習等を通して、より現実的な職業観を身に付けさせる。ハローワークや進路支援業者との連携を強化する。 ②基礎学力を定着させるとともに、目標を立て、計画的に学習できるように支援する。 ③教員の進路支援スキルを向上させる支援をする。 ③適性検査等で自己分析の徹底を図る。	①社会で必要とされる基本的なビジネスマナーを身に付けさせることはできたか。インターンシップ、外部教育力の活用状況と校内進路ガイダンス等は実施できたか。 ②朝学習を通して基礎学力が定着しているか。 キャリアパスポートから学習計画を見える化できたか。 ③教員向け進路ガイダンスが実施できたか。 ③適性検査を実施し、生徒の進路支援のサポート体制が構築できたか。	①ビジネスマナーに関する声掛けを日常的に行っているが定着は難しい。 ・インターンシップ、外部講師による学校説明会、ハローワークによる就職指導(3 回)ハローワークによる模擬面接指導（1週間）実施。スーツ着こなしセミナー実施。 ②基礎学力の定着のため朝学習に取り組んだ。 ・キャリアパスポートの記入を促した。 ③専門学校の選び方に関する教員向けガイダンス実施予定。 校内企業説明会実施予定。 ③1・2・3 年とも適性検査を実施。	①今後も根気強く訴えていく必要があるが、価値観の多様化により共有することが難しい場面が出てきている。 ②高校までの基礎学力の個人差が大きい。今後は個に応じた教材の選定が必要。 ・キャリアパスポートを体系的利用、有効的活用できていない。 ③教員の進路指導のスキル向上。	○学校を通した就職斡旋を希望した生徒については、全員内定の結果を出している。進路指導の体制が生徒の希望に添って準備できており、今後もお願いしたい。 ○生徒・保護者共に価値観が多様化している中で挨拶や身だしなみ等についての指導が難しく苦労されているが、学校生活のあらゆる場面を活用したキャリア教育の充実を期待する。 ○生徒の進路希望を実現できるように、教職員の進路指導に関したスキルを上げるための企画については実践していただきたい。 ○キャリアパスポートの有効的な活用について検討を進めていきたい。	①③生徒の進路実現に向けた成果を出すことができた。今後は、希望する進路の多様化と変化していく選考方法へ対応できる教職員の情報収集力と指導力の充実が課題になる。 ①③校内進路行事では、インターンシップ、外部講師による学校説明会やハローワークによる就職指導・模擬面接指導等を実施した。また、全学年とも適性検査を実施することができ、３学期には１・２年生対象に校内企業説明会実施を実施できた。 ②身だしなみや挨拶の励行について、全生徒が積極的に行えるよう指導を継続する。学校生活のあらゆる場面を活用しビジネスマナーや社会人基礎力に結び付けていくことが課題である。	①③学校や企業、外部講師を招いた生徒対象の進路説明会等について、進路指導担当以外の職員も積極的に参加し、職員の進路指導への意識の底上げをしていく。 ②③キャリア教育充実に向け、3 年間を見通したカリキュラムを充実させるとともに、外部講師の更なる活用を視野に入れた指導体制を構築する。 ②全職員と協力し、学校生活のあらゆる場面を活用したキャリア教育を実践する。身だしなみや挨拶を含め、普通科高校性よりは早く社会に出ることを意識した規範意識の醸成を図る。
４	地域等との協働	①農業科や商業科の専門教育活動について積極的に地域に広報しＰＲするとともに、魅力ある学校づくりを推進する。 ②農業科、商業科それぞれの高い専門性の知識と技術を活かしつつ、社会に貢献することができる生徒を育成する。	①農業科、商業科の魅力と特色をアピールするとともに、農業科と商業科が連携した取り組みを推進する。 ②地域の関係諸機関との連携を深め、地域に生徒が関われる活動を増やし、開かれた学校づくりを行う。	①学校説明会、学校案内及びホームページ等の内容を充実させ、本校の特色を中学生により分かりやすく伝える取り組みを充実させる。 ②地域学校協議活動をはじめ、地域との交流活動、コミュニティスクール等の実施と推進に向け、関係機関、部署との連携	①学校案内の配付実績、学校説明会のアンケートの集計内容と参加人数の実績で効果はあったか。 ②農業クラブ活動や商業チャレンジ委員等の参加生徒人数や指導実績、企業団体との協働及び外部講師等の活用ができたか。	①生徒の活動実績の掲載や体験入学・学校説明会の周知、申込フォーム等、遅延なく随時実施することで、各回多くの中学生・保護者に参加してもらうことができた。また、アンケートの結果から概ね参加者の満足度は高かった。 ②地域協同の取組み推進のため、地域と連携し、近隣公園の飾花活動（平塚市桜ケ丘公園）や地域イベント（平塚市城島地	①感染状況に応じた募集方法や実施方法を随時検討し、より多くの参加者を受け入れる体制を整え、より多くの広報の機会を設ける。 ②地域協同の取組みにおいて、農業科・商業科共に、より多くの生徒が学びの場として参加できる体制作りを検討していく。	○学校説明会への参加希望者が多く、第３回目を追加実施したということで、広報活動についてはよく工夫して取組めていたと思うが、令和５年入学者選抜において商業科は二次募集を行う。学校の魅力についてまだ十分に広報できていないと思われる。発信方法を工夫するとともに近隣中学校での説明会なども検討していただきたい。 ○農業科、商業科ともに様々な機関と連携し、多くの取り組みをすることができており評価する。今後も地域学校協働活動により地域における生徒の学びの場を活用した地	①感染症対策のため、学校説明会への参加人数に制限をかけたために参加できない方が多く出てしまった。参加できない方向けの広報の工夫が課題である。 ②様々な機関との連携から多くの商品開発などの取り組みを行うことができた。今後は城島地区等との地域学校協働活動による連携を進めていく。 ②感染症流行の影響で近年行われていなかった地域との連携を復活させる	①対面での説明会・見学会だけではなく、学校説明動画の配信や学校見学動画などＩＣＴの活用を工夫した新たな学校広報活動への取り組みを推進する。 ①学校ＨＰの充実のため、掲載方法の簡素化から定期的な更新回数を増やし、常に学校の様々な活動や取り組みについて広報できる工夫をする。 ②今年度の活動について適切に広報活動を行い、地域の人々や中学生に対してアピールし、さらに教育活動を充実させることで地域における生徒の学びの場を活用した地域連携を行う。 ②今年新たに連携を始めた団体もあり、今後、連携を継続・強化し、教育活動を充実

令和４年度　学校評価報告書（実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月15日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月１日実施）	成果と課題	改善方策等
				を図る。		区　きじまルシェ、平塚市　まちなかベースきちきち）でのイベントや生産物販売等を行うことができた。 ②その他 平塚市立中原小学校「田植え、稲刈り体験」、平塚市立平塚盲学校「農業体験」等を実施。	（農業クラブ、商業科チャレンジ委員の参加等）	域連携をお願いする。 〇課題研究発表会を農業科、商業科を合わせて「ひらしん平塚文化芸術ホール」で実施できたことは良かった。今後、課題研究の内容についても農業科・商業科が連携した新しい取り組みについても検討していただきたい。	など、委員の意見を真摯に受け止め、学校の運営を見直し、改善することができた。 ②例年行っている農産物販売会や小学校の農業体験の受け入れだけではなく、JA、平塚市観光協会、横浜薬科大学、山崎製パン、神奈川県警などと連携した活動を行うことができた。また、平塚中心商店街、城島地区、三秀堂和菓子店、ちえん農家、フリーデン、高久製パンなどとの連携を行うと共に、平塚七夕祭などへの取り組みを復活させることができた。	させていけるように努力する。また、今後、さらに連携を強化すると共に、様々な企業や団体と連携をしていることを地域にアピールし、教育活動を充実させていけるように努力する。
５	学校管理 学運営	①新校舎及び耐震工事中の校舎の効果的活用と学習環境の充実を図る。 ②事故・不祥事のない、地域から信頼される学校づくりと持続可能な学校運営と教育の質を高めるため「働き方改革」を推進する。	①学習環境を充実させるため、耐震工事が完了する２棟や商業教育棟の整備・整理を行う。 ②学校防災マニュアルを基本とし、防火・防災に向けた管理を徹底し、生徒の安全管理に努める。 ②不祥事事故防止のため、職員の当事者意識を高めるための取り組みを行う。	①ゴミの分別と減量化の意識付けと仕組みを作る。 ①移動後の授業が支障なく展開できるよう計画的な引っ越し計画を立てる。Wi-Fi 環境を含めたプレハブ・商業教育棟の環境整備を行う。 ②様々な状況を想定し、災害時に実践できる訓練を行い防災意識を高めることで、主体的な行動を引き出す。 ②職員主導による事故防止研修会を行う。	①ゴミ分別・減量化の取り組みはできたか。 ①定期的に物品等の使用状況や過不足を確認し、現状の把握と対応ができたか。Wi-Fi 環境の状況確認と整備はできたか。 ②避難経路に問題がなく、様々災害に対応できる訓練方法の工夫と効果はあったか。 ②不祥事事故防止研修会のアンケート結 果から意識改革の効果はあったか。	①ゴミの分別・減量化は昨年度並みの実施状況で継続的に行うことができた。 ①２棟引越し後の細かい物品の使用状況については定期的把握し、補充することができた。Wi-Fi 環境の整備については、２棟への引っ越しと同時に、各教室にアクセスポイント１台ずつ設置することができた。 ②防災訓練は６月に１回目を実施し、問題なく終了。12月に２回目を実施した。 ②不祥事防止ゼロプログラム推進委員会を立ち上げ、管理職を含めた10名で、不祥事防止の啓発や点検、事故防止標語の作成を実施し、職員が主体となった研修を行うことができた。	①特になし ①プリンターなどの備品については、３台新規購入を行ったので、故障しているシュレッダーの手配を進めたい。 ②次年度、引っ越し後の避難経路の作成や、避難訓練の方法についてもう少し整備していく必要がある。 ②年度末のアンケート等で検証したい。	〇耐震工事完了に伴う第２棟への教室移動等は大きな混乱もなく実施できている。今後、第３棟の工事もあるが引き続きお願いしたい。 〇校内を見てもゴミ等が落ちていることもなく掃除も行き届いていると感じる。生徒のゴミの持ち帰りが定着すると良い。トイレ環境も良いので、引き続き綺麗に使用できるよう指導をお願いしたい。 〇令和５年度初めには第３棟工事も始まり、農業科実験実習棟が仮設プレハブ棟に移るので、掃除配当・避難経路や防災に係る訓練等についての衛生・安全面の計画をお願いする。 〇職員の事故不祥事防止については継続してほしい。	①引っ越しに係る多くの産業廃棄物について、その分別方法が職員に周知することが難しく、事務室担当者に多くの迷惑をかける結果となった。 ①耐震工事完了に伴う教室移動に伴い、仮設プレハブ棟に設置してあったWi-Fi アクセスポイントを第２棟各ＨＲ教室内に移設した。 ②新たに第３棟改修工事が始まり、敷地内での長期にわたる工事が行われると共に仮設プレハブ棟への教室移動がある。校舎配置と生徒の動線が変わり生徒への怪我・事故がないよう安全を確保するとともに掃除配当や避難経路、防災に係る訓練等についての計画を改めて作成する必要がある。 ②不祥事防止ゼロプログラム推進委員会では、職員が主体になり、不祥事防止の啓発や点検、事故防止標語の作成を実施したが、委員会の開催回数が少なく定期的な開催が課題である。	①廃棄物品等については、計画的な破棄と適切な分別・仕分けを日頃より呼び掛けていく。 ②学校敷地内での大きな工事のため、工事関係者や事務室担当者との定期的な打ち合わせを行い、生徒が安全に学校生活を送れる環境について検討をすすめる。 ②新たな教室配置での避難経路の作成と避難訓練の方法を整備する。また、教室移動による生徒の動線について、教科担当者と工事関係者との連絡調整を密にし、事故防止に努める。 ②不祥事防止ゼロプログラム推進委員会の定期的な開催ができるよう年度当初に日程を立て、細やかな不祥事防止についての振り返りと検証が行えるよう工夫をし、より職員が主体となった研修の推進をすすめる。